

## 体験活動を通して学ぶこと

10月11日、さわやかな天候の中、1年生は恒例のサツマイモ掘りを体験しました。東深瀬・村瀬治男さんのご厚意で30年続いた活動です。今年度もPTA学年委員さんによって葉やツタが刈り取られ、イモを掘るばかりに整えて頂きました。

子どもたちは、自然や環境とのかかわりを通して、植物への関心、食べ物を大切にしようとする気持ちなどを学びました。収穫したサツマイモは家庭だけでなく、給食の材料として、全校児童・職員でいただきます。親子で土に触れるという楽しい体験だけでなく、地域の方々との交流や自立した食生活への基礎を培う食育としての学びを得ることができました。



4年生は、美濃市にある美濃和紙の里会館に出かけました。繊細できめ細やかな風合いをもつ美濃和紙には、1300年以上もの歴史があります。職人の手で一枚一枚すいてつくられる伝統文化を学ぶために、子どもたちは見るだけではなく、実際に触れ、自分の手で紙をすいてみました。職人が使う本物の道具と楮（こうぞ）100%の材料を使用した紙すき体験によって、代々受け継がれてきた技術と岐阜の豊かな自然に支えられた貴重な伝統文化を学ぶことができました。

教室で学ぶことのできない体験活動は、「擬似体験」の機会が圧倒的に多くなった子どもたちにとって、ヒト・モノや社会に実際に触れてかかわり合う「直接体験」としてかけがえのないものです。身近な体験から伝統や社会を知る体験へと、学年が上がるごとに視野を広げながら学びを深めていきます。体験活動は、子どもたちが考えたり実践したりする際の出発点や、よりよい生活を創り出していくための基盤になるものです。今後も6年生の修学旅行をはじめ、各学年の体験活動を実施しますので、ご家庭でも話題にさせていただき、児童たちの学びを共有してください。

## 登下校の安全対策について

9月16日（金）、臨時地区委員会を開催しました。富岡橋の工事に伴い危険箇所が増加した実態と対策を知っていただくことが目的です。なわて橋西・旧農協前交差点では、出勤する車が南北で交錯する中を児童が登校するという極めて危険な状況が生じています。東深瀬においても、向塚や金屋洞、鴻ヶ池の通学路に、乗用車が抜け道として侵入してくる事案が急増しているという報告をうけており、安全対策の対象は、ほぼ全ての児童に関わるものと認識しています。

現在、見守り隊による献身的な対応で事故を防ぐことはできてはいるものの、十分な安全の担保はできていません。学校と見守り隊では、山県市に対して改善の具体を示していただくよう強く要望するとともに、警察の立哨とパトロールの要請をしているところです。

保護者の皆様も、お気づきの点や心配な点がありましたら学校へ連絡いただくと同時に、お住まいの自治会長様への一報をお願いします。

# マスクの寄贈

東深瀬・村瀬登使文様より、大人向けマスクをご寄贈いただきました。11月12日 土曜参観日の折、校舎入口付近にご用意しますのでお持ち帰りください。なお、数に限りがあります。

## 創立 150 年の歩み その2

富岡小学校の名前は、富岡や山県の歴史です。

- 
- 明治 27 年 東深瀬村、西深瀬村、高木村が連合し、深瀬尋常小学校をつくる。
  - 明治 31 年 東深瀬村、西深瀬村、高木村が合併。富岡村をつくる。翌年、富岡尋常小学校になる。
  - 昭和 22 年 富岡村立富岡小学校と改称する。
  - 昭和 30 年 高富町、富岡村、梅原村、桜尾村、大桑村が合併して高富町になり、高富町立になる。
  - 平成 15 年 高富町、伊自良村、美山町が合併し、山縣市になり、山縣市立になる。
- 

村から町へ、そして山縣市へ変わるたび、小学校は名称を変えてきました。それぞれの時代に応じて、学びの仕方を変えながら、たくさん子どもたちが巣立っています。